

# 琉球大学学術リポジトリ

令和2年度Professor of the  
Yearを受賞して一初めてのリモート講義に奮闘一

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2023-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 日高, 道雄 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24564/0002019747">https://doi.org/10.24564/0002019747</a>

# 令和2年度Professor of the Yearを受賞して —初めてのリモート講義に奮闘—

日高 道雄  
琉球大学グローバル教育支援機構 非常勤講師

## 1 はじめに

思いがけなく、令和2年度前期の「生物学II」に対し、名誉ある賞を受賞し光栄に思います。現役時代から講義があまり得意とは言えなかったのが意外な思いがありました。今回は講義室での対面講義ではなく、遠隔講義それもナレーション付きのパワーポイントファイルをWebClassからダウンロードして視聴してもらうという形式でしたが、それがかえって評価されたのかもしれないと複雑な思いです。受講生からの積極的なメールによる質問、レポートの内容、課題発表の充実度などを考えますと、受講生に恵まれ、運が良かったのだと思います。

## 2 初めてのリモート講義に奮闘

今振り返ると、初めてのリモート講義のために奮闘したことが思い出されます。それまではプリントと板書を主体としていた講義を、全面的にパワーポイントに置き換えました。それに伴い、講義内容も再編成することとなり、各回の講義で伝えたいポイントをシラバスの授業計画に書くようにしました。1回の講義を前半と後半に分け、各30分程度の2つのファイルとしました。パワーポイントにナレーションを入れるのも初めての経験で、緊張しながら録音し、やり直しも結構ありました。高齢のためか、記憶がおぼつかない部分もあり、その都度Molecular Biology of the Cellを読み返し、(当然のことではありますが) ああそういうことかと理解し納得したうえで録音するようになりました。受講生にとっては、都合の良い時間に自宅で講義を視聴できること、分かりづらい点は繰り返し視聴できることなどメリットもあったと思います。

学期の初めに、学生に自宅でのネット環境、WebClassからダウンロードしたパワーポイントファイルを視聴できるか、パワーポイントにナレーションを録音することは可能かなどについてアンケートを行いました。さらに、遠隔授業の技術的なことなどに関して学生からメールでの質問があり、教室で質問しづらい細かなこともメールだと聞きやすいのかなと思いました。そしてそのようなメールでのコミュニケーションをとることで学生との距離が縮まった気がしました。一方で学期初めにはなかなかメール連絡が取れない学生もいました。受講生への重要な連絡事項は、WebMailでメールするとともに、WebClassに「講義に関するお知らせ」の章を設け、そこに掲載しました。またシラバスのメッセージ欄にも掲載しました。

## 3 学生による課題発表について

受講生はほとんどが1年次でしたので、学生どうしも互いに顔を合わせたことがなく、学科

内のメーリングリストも無いようでした。学生どうしがリモートで話し合い、協力して作業をする機会が必要と考え、グループ発表を取り入れました。数ページの解説論文を読んで、ナレーション付きパワーポイントファイルを作成して内容を紹介するという課題です。メールで連絡をとって分担を話し合い、協力して発表ファイルを作ることができるか不安な点もありましたが、提出された発表ファイルは期待を上回る充実したもので感動しました。学生にはすべての発表をリモートで視聴し、各発表について質問・コメントをレポートとして提出してもらいました。私も、各グループの発表に対し短い講評をWebClassに掲載しました。発表が分かりやすかったことなど良かった点をあげ、必要な場合には、このようにするともっと良くなると指摘しました。

グループ発表の視聴自体は第14、15回の2回分の講義をあてました。発表のための準備には2カ月程度かけましたので、学生どうしがキャンパスで顔を合わせることが困難な状況下で、グループメンバーが互いに知り合うきっかけにもなったと思います。解説論文のテーマには、現代社会で問題になっている様々な生物学的課題が分かるように多様なテーマを選びました。受講生の所属する学科（主に保健学科）も考慮しました。14のテーマの解説論文から学生の選択したテーマは下記の11テーマでした。

- ① 遺伝子診断・検査と社会—判りすぎるジレンマ—
- ② ゲノム編集の光と闇—ヒト受精卵の遺伝子改変は許されるか—
- ③ 進化生物学から見た少子化—ヒトだけがなぜ特殊なのか—
- ④ 自然免疫の真の姿
- ⑤ 昆虫科学が拓く新しいモノづくり—昆虫の能力を再現した匂い源探索ロボット—
- ⑥ 動物の性格を遺伝子で表す
- ⑦ 恐竜研究からのメッセージ
- ⑧ 植物たちの生き方に学ぶ
- ⑨ iPS細胞を用いたパーキンソン病治療
- ⑩ パンデミック対策用インフル薬「アビガン」開発
- ⑪ 小胞体ストレス応答の仕組みと意義

#### 4 講義視聴確認のための質問リスト提出について

リモート講義で実際に講義を視聴したことを確認するために、受講生には毎回の講義に少なくとも一つの質問を考え、質問リストを提出してもらいました。通常の対面講義では、何か質問ありますかと言ってもほとんど質問が出ません。講義で何が分からなかったのか、もっと知りたいことはどのようなことかを考える癖をつけてもらうため、いわば質問力を上げるためのレポート課題でもありました。学生からの質問には、かなり内容を理解したうえで考えた質問やコメントが多かったので安心しました。このような説明の仕方では誤解されやすいと気づかされたこともありました。また、私の考え違いやスライドの間違いを指摘されたこともありました。すべての質問に回答することは無理なので、新たな気付きのある質問、講義で誤解されやすい点に関する質問、そして複数の受講者が質問し私の方でも補足したいと思ったことなどについてWebClass上で回答しました。質問は多岐にわたり、回答の作成にはかなりの時間と労

力が必要でした。

質問リストをレポートとして要求した当初は、質問を見れば講義の理解度が分かると単純に考えていましたが、レポートとして評価することは予想以上に難しいことでした。

## 5 課題・反省点について

- (1) 学期当初は、マイク、ヘッドセットがなかなか手に入りませんでした。
- (2) メールで連絡ができない学生がおり、電話など他の連絡方法がないので苦労しました。
- (3) パワーポイント画面に演者の様子を小さく入れることができることに後で気づきました。導入部などで発表者の顔を出すと、学生の注意をより一層画面に引き付けることができたかもしれません。
- (4) 学生の発表ファイルの最初に簡単なプロフィールを入れると互いに知り合える助けになると考えましたが、個人情報をごとまで入れてよいのか難しい点がありました。最終的には所属学科、発表者氏名と分担、好きな動物などといった簡単なものになりました。
- (5) ZOOMを使った経験がなかったので、ZOOMを使わず、対面授業もなかったので、結局最後まで受講生の顔を見る機会がありませんでした。そのことは少し残念な点でもありました。
- (6) 試験はリモートで行いましたが、何を見てもよいが、各自独力でやるようにと注意したうえで行いました。一部小論文的な問題を取り入れたこともあり、特に問題のある解答はありませんでしたが、リモートによる試験のやり方については、工夫が必要かなと考えました。